



# 決算説明会

2007年3月期第1四半期

2006年8月1日

ミネベア株式会社

# 1Q連結業績ハイライト

・経営基本方針による諸施策の効果が着実に現れつつある。

(百万円)	2006年3月期	2007年3月期	前年同期比
	1Q	1Q	伸び率
売上高	75,690	80,201	+6.0%
営業利益	3,010	5,858	+94.6%
経常利益	2,163	4,713	+117.9%
税引前利益	830	5,205	+526.7%
当期純利益	980	3,288	+235.5%
一株当たり(当期)純利益	2.46	8.24	+235.5%

為替の影響 06/3期1Q → 07/3期1Q 売上高 41.2億円、営業利益 2.5億円  
(US\$ 107.28円 → 114.71円、 タイパーツ 2.70円 → 3.00円)

2006年8月1日

1

 Minebea

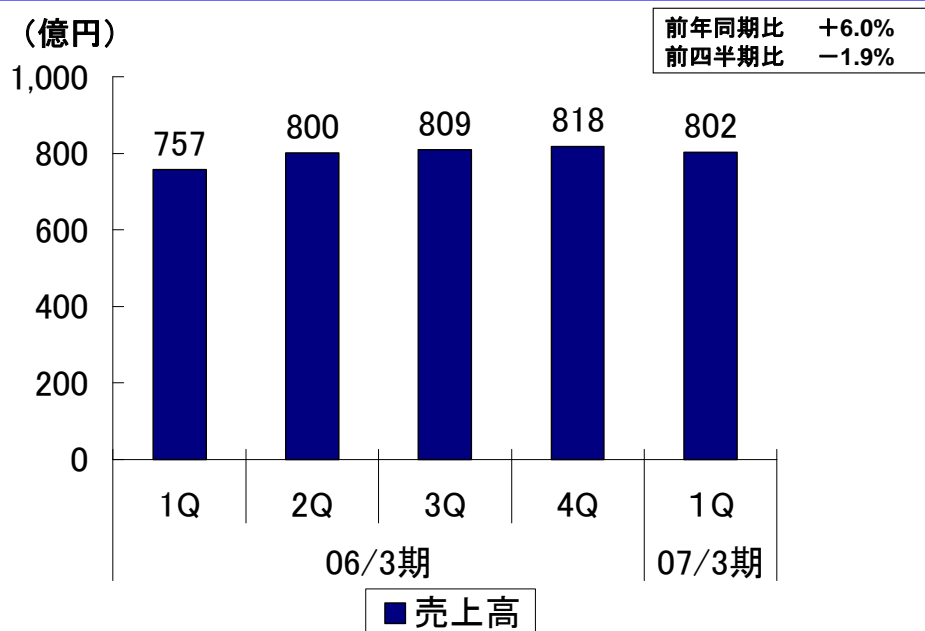
2007年3月期第1四半期の連結業績は、売上高802億円、営業利益58億5,800万円、純利益32億8,800万円となりました。

前年同期に比較して、売上高は6.0%増、営業利益は94.6%増、純利益は3.4倍(235.5%増)と、収益が大幅に伸びました。

以上の業績は、2005年6月以降の経営基本方針による諸施策の効果が着実に現れつつあるためと考えています。

## 四半期推移

## 売上高



2006年8月1日

2

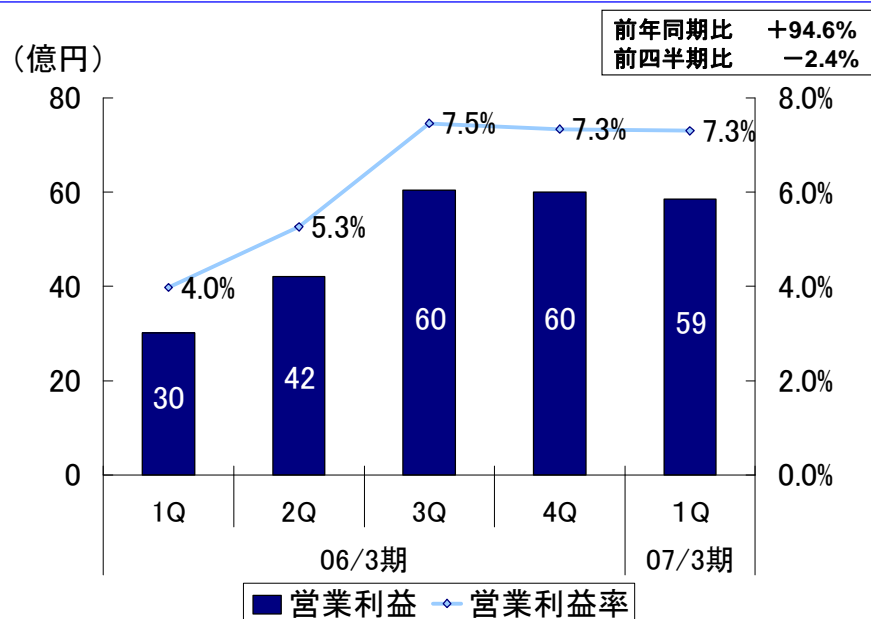


売上高の四半期ごとの推移です。

第1四半期の売上高は802億円と、前四半期比で1.9%減とわずかに減少しましたが、前年同期比では6.0%増加しています。

## 四半期推移

# 営業利益



2006年8月1日

3

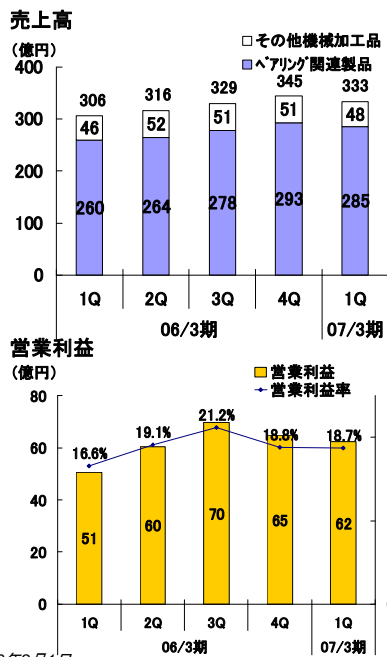
Minebea

営業利益の四半期ごとの推移です。

第1四半期は前年同期比94.6%増、前四半期比で2.4%減となりました。

昨年第3四半期以降は営業利益、営業利益率共に、ほぼ横ばいとなっております。

# セグメント別 機械加工品事業 売上高・営業利益



## ミニチュア・小径ボールベアリング

売上高 前年同期比 +6.8%  
前四半期比 -1.2%

引き続き好調 ⇒ 生産能力拡大投資  
世界シェア60%の競争力を更に強化へ

## ロッドエンド&スフェリカルベアリング

売上高 前年同期比 +21.7%  
前四半期比 +4.2%

航空機向けに引き続き旺盛な需要

## ピボットアッシー

売上高 前年同期比 +10.1%  
前四半期比 -12.1%

弱含みのPC市場とHDDメーカーの  
6月期末の在庫調整で売上減少  
第2四半期以降は改善の見込み

2006年8月1日

4



機械加工品事業セグメントの状況についてご説明いたします。

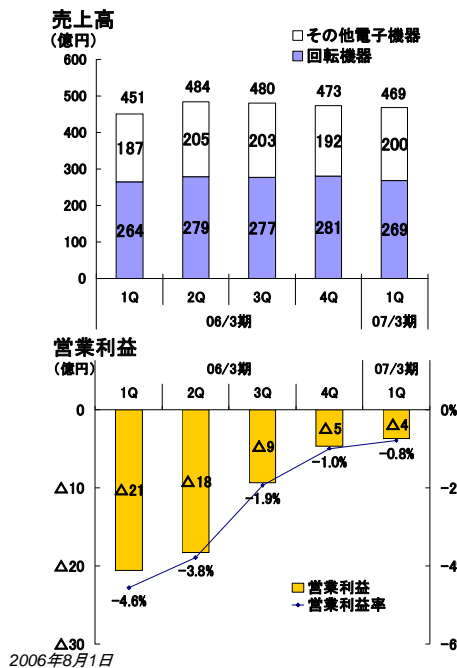
まず、ミニチュア・小径ボールベアリングにつきましては、売上高は前年同期比6.8%増、前四半期比1.2%減となりました。社内使用と合わせた販売個数は月1億7,200万個で、前四半期比横ばいとなりました。但し、月別に見ると、4、5、6月と月を追って販売が増えており、ユーザーからの引き合いも強まっています。今後とも世界のミニチュアベアリング需要は好調に推移するとの見方を強めているため、現在の生産能力月産1億8,000万個を、年内に1億9,000万個、来年には2億個へ引き上げるべく、主力工場での生産能力拡大投資を進めています。世界シェア60%のミニチュア・ボールベアリングの競争力を更に強化し、利益体質をより強固とするため、今後とも原価低減や製品開発の強化に取り組んでまいります。

ロッドエンドなど航空機用ベアリングは、世界的な航空機生産の好調を受けて、第1四半期売上高は前年同期比21.7%増となりました。個別メーカーの一部機種における生産トラブルの話もありますが、全体に影響する話ではないと見ています。

ここまでの事業は予想以上に好調に推移していますが、一方で、HDDに使用されるピボットアッシーは、第1四半期は厳しい状況で、売上高は前四半期比12.1%減となりました。この理由は、PC市場が季節要因も含め弱含みだったことに加え、HDDメーカーの6月期末に向けた在庫調整のため、3.5インチHDDを中心に生産調整が起きたためです。ピボットアッシーの第1四半期販売は月1,900万個強と、直近のピークである第3四半期から2割近い減少となりました。しかしながら、ユーザーからの受注を見ると第2四半期以降は大きく改善すると見込んでいます。

以上により、機械加工品事業セグメントの営業利益は62億円となり、営業利益率は18.7%となりました。

## セグメント別 電子機器事業 売上高・営業利益



### エレクトロデバイス

売上高 前年同期比 +29.3%  
前四半期比 +16.2%  
LEDバックライトが携帯電話向けに、  
インバーターが液晶TV向けに需要好調

### HDDスピンドルモーター

売上高 前年同期比 +9.2%  
前四半期比 -14.3%  
HDDメーカーが生産調整  
第2四半期以降は改善の見込み

### 情報モーター

売上高 前年同期比 -4.5%  
前四半期比 -1.7%  
受注内容見直しと利益重視で、  
黒字化へ向け構造改革中

### キーボード

売上高 前年同期比 -1.7%  
前四半期比 -1.6%  
本年4月発表の事業構造改革を実施中

5



電子機器事業セグメントの状況についてご説明いたします。

エレクトロデバイスでは、高輝度・超薄型LEDバックライトが携帯電話向けに需要好調でした。また、液晶TV向けインバーターも需要好調で、売上が大きく増加しました。

一方、HDDスピンドルモーターの売上高は、HDDメーカーによる3.5インチHDDを中心とした生産調整の影響を受けたため、前四半期比14.3%減となりました。ただ、収益環境は厳しかったものの、第4四半期に引き続き黒字を確保しました。

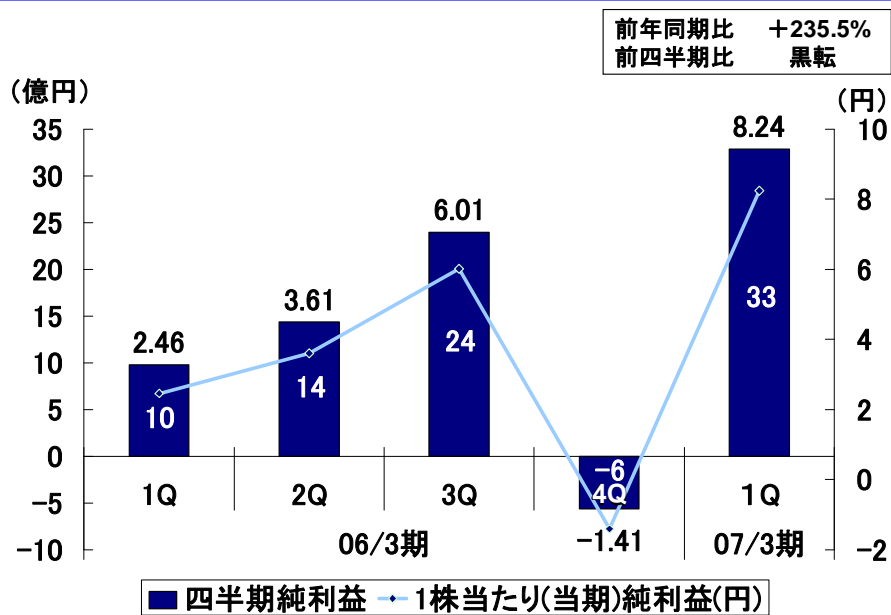
また、情報モーターでは、原価低減を進め、受注内容の見直しなどを行った結果、売上高は、前四半期比1.7%減少しましたが、事業そのものの損益は改善しました。加えて、4月から合併親会社へのロイヤリティー支払いを減額する措置をとったこともあり、ほぼ収支均衡となりました。

次に、キーボードでは、本年4月に発表した事業構造改革施策に着実に取り組んでおります。売上高は、前四半期比1.6%減となり、損益面では横ばいでした。

以上のことから、電子機器事業全体の第1四半期の営業損失は4億円となり、前期第4四半期から1億円の改善を果たしました。

## 四半期推移

## 当期純利益



2006年8月1日

6

Minebea

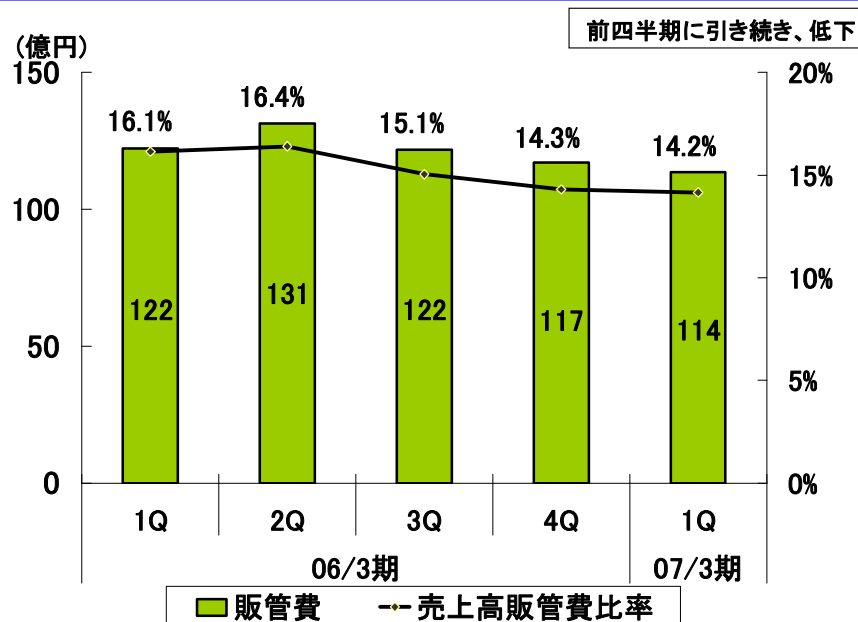
当期純利益の四半期ごとの推移です。

第1四半期は32億8,800万円、一株当たり8.24円と、前年同期比、前四半期比ともに大きく改善しました。

前年同期比では、営業利益の大幅な改善により、3.4倍(235.5%増)となりました。

## 年推移

## 販管費



2006年8月1日

7

Minebea

販管費の四半期ごとの推移です。

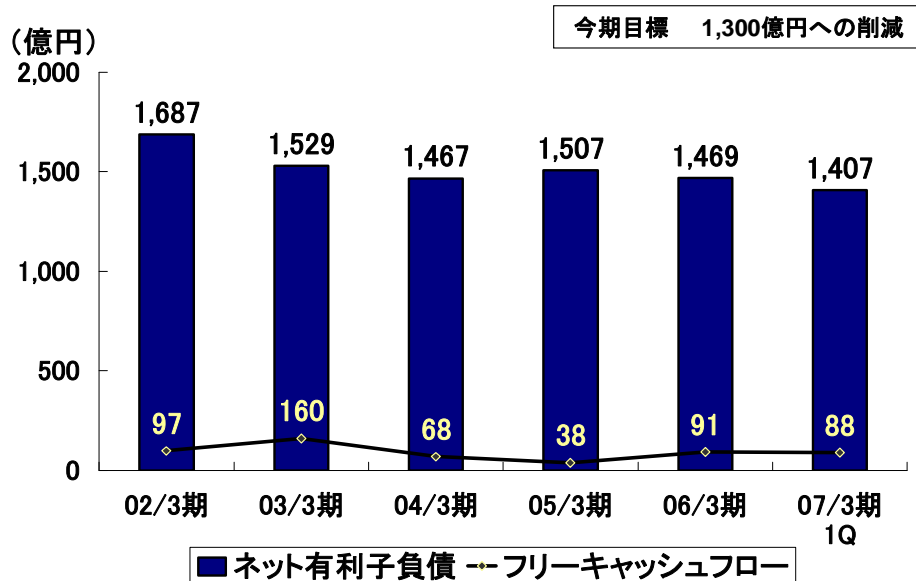
全社で取り組んでいる販管費削減の効果が表れ、第1四半期の販管費は113億5,900万円でした。売上高販管費率は14.2%まで低下しました。

今後も販売費及び経費の一段の削減を進めてまいります。



## 四半期推移

# ネット有利子負債



ネット有利子負債 : 有利子負債合計 - 現預金  
 フリーキャッシュフロー : 営業活動CF + 投資活動CF

2006年8月1日

8



有利子負債の年ごとの推移です。第1四半期末における、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債は1,406億9,500万円と、約62億円の減少となりました。今期の重要目標であるネット有利子負債残高1,300億円への削減に向けて、順調な一歩を踏み出すことが出来たと考えています。

## 業績見通し

(百万円)	2006年3月期	2006年5月発表計画		
	通期	上期	通期	通期伸び率
売上高	318,446	152,000	310,000	-2.7%
営業利益	19,269	11,500	25,000	+29.7%
経常利益	14,595	8,400	19,000	+30.2%
税引前利益	9,620	8,000	18,000	+87.1%
当期純利益	4,257	5,300	10,000	+134.9%
一株当たり(当期)純利益	10.67	13.28	25.06	+134.9%

為替レート 06/3期実績 → 07/3期想定  
 (US\$ 113.09円 → 115.00円、タイパーツ 2.79円 → 2.80円)

2006年8月1日

9



以上の結果を受け、今期の業績予想は変更いたしません。

第1四半期以降につきましては、現段階では当初計画を変更するほどの事業環境、競争状況の変化は生じておりませんので、引き続き事業目標の達成に向け、尽力してまいりたいと考えております。

# 進捗状況

## 1. 課題三事業の収益改善

### HDDスピンドルモーター事業

- 前期4Qに営業利益黒字化を達成
- 1QはHDD市場減速の影響を受けたが、2Q以降に回復を見込む
- 2.5インチHDD向けモデルは販売急増中
- より小型向けの新製品開発に注力中

### 情報モーター事業

- 前期中に生産体制の再編を実施
- 数量重視から利益追求へ方針切り替え中
- 合併親会社へのロイヤリティー支払い減額

### キーボード事業

- 今年4月に大幅な事業構造改革策を発表
- 不採算モデルの削減と高付加価値製品への集中を推進中
- 今期中の単月黒字達成を目指す

## 2. 成長事業の拡大と将来利益の確立

### ベアリングおよび関連事業

競争力の更なる強化と利益拡大に向け、能力拡大投資へ

### 光デバイス事業

携帯電話向けから、カーナビ向けへLEDバックライトを拡販  
液晶TV向けインバーターの製品拡充・拡販

2006年8月1日

10



最後に、2005年6月に打ち出した経営基本方針のうち、「課題三事業の収益改善」と、「成長事業の拡大と将来利益の確立」の進捗状況につき、ご説明いたします。

昨年来、真っ先に取り組んできた課題三事業の収益改善につきましては、徐々に成果が現れており、今後も黒字化の確立を図っていきます。

HDDスピンドルモーター事業におきましては、前期第4四半期に営業利益黒字化を達成しましたが、第1四半期は、第4四半期と比べ、HDD市場減速の影響を受けました。その中で、新製品である2.5インチHDD向けモデルが販売急増中です。より小型のHDD向け新製品開発にも現在注力しています。第2四半期以降の市場回復が見込みどおり進んでおり、HDDメーカーからの需要は7月以降回復していますので、収益面での改善が進むと見ております。

情報モーター事業につきましては、前期中に生産体制の再編を実施し、また、数量重視から利益追求へと方針を切り替えたこともあり、前期第3四半期以降、損益改善が進んでいます。加えて、合併親会社へのロイヤリティー支払いを減額する措置をとったこともあり、今期は確実に黒字化が達成できると考えています。

キーボード事業につきましては、今年4月に発表した大幅な事業構造改革案を着実に実行し、不採算モデルの削減と、無線LAN機能付キーボードなどの高付加価値製品への集中を、第3四半期完了を目標に進めています。構造改革の本格的な効果は、第4四半期から出てくると見込んでいます。

これらの課題三事業への対応と平行して、成長事業の拡大と将来利益の確立に向けた施策を行っております。世界景気の拡大を受け、ベアリングおよび関連製品への需要は相当な強さであり、特に世界シェア60%のミニチュアベアリング、世界シェア50%の航空機向けロッドエンド&スフェリカルベアリングについては、競争力の更なる強化と利益拡大に向けた生産能力拡大投資を進めています。また、HDD用ピポットアッシーについても、7月以降のHDD市場の回復に伴い需要増加が見込めるため、生産能力の拡大を図ります。

また、高輝度・超薄型LEDバックライトは携帯電話向けに好調ですが、この技術競争力を更に活かすべくカーナビ向けへの拡販を図っております。液晶TV向けに需要が好調なインバーターにつきましても、製品ラインアップの拡充と拡販を進めます。

以上、現時点での進捗状況をご説明いたしました。今後とも引き続き、経営基本方針による経営改革にまい進してまいりたいと考えております。

# ミネベア株式会社

## 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。